

令和5年度 臨床統合試験問題

本試験(4)

令和6年2月5日(月)

注意事項

1. 指示があるまで問題冊子を開かないこと。
2. 問題冊子の学生番号・氏名欄を記入すること。
3. マークシートの番号、氏名欄は裏表紙の記入上の注意に従い、解答も含め鉛筆で記入すること。ボールペン等での記入、未・誤記入の解答は無効です。
4. この問題冊子は試験終了後回収するので持ち帰らないこと。
5. 問題は5肢単純択一形式、X2形式(「2つ選べ」)およびX3形式(「3つ選べ」)です。消し忘れ等不明瞭な解答は無効です。

学生番号	氏 名
B M	

臨床統合試験問題

第 1 問

脳血管性認知症について正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 50 歳台では発症しない。
2. 運動障害を伴うことが多い。
3. 脳梗塞の初回発作では生じない。
4. 頭部 MRI・MRA 画像では異常を認めない。
5. 脳血流 SPECT における血流分布異常は特定のパターンを示さない。

臨床統合試験問題

第 2 問

54 歳の男性。脳梗塞後の右片麻痺のため回復期リハビリテーション病棟に入院中である。発症して 1 か月経過し、痛みの訴えはない。意識は清明。身長 168 cm、体重 60 kg。言語理解は良好であるが、言語表出は単語レベルである。構音障害は認めない。徒手筋力テストで右上肢筋力は 4 で、手指も 1 本ずつ順番に指折りと伸展が可能である。徒手筋力テストで右腸腰筋 4、右大腿四頭筋 4、右前脛骨筋 4 である。座位、立位は安定している。右半身の表在覚、位置覚ともに正常である。

この患者に必要なのはどれか。

1. 三角巾使用による右上肢固定
2. 長下肢装具使用での歩行訓練
3. 日常生活における右手使用の指導
4. 環境制御装置を用いたナースコール
5. 文字盤使用によるコミュニケーション

臨床統合試験問題

第 3 問

59 歳の女性。歩行障害を主訴に来院した。半年前から立ちくらみとともに歩行時にふらついて、よく壁にぶつかるようになった。同時期から頑固な便秘を自覚し、尿失禁もみられるようになった。歩行障害は徐々に悪化し、1 週間前には転倒した。最近では箸も使いにくくなった。既往歴、家族歴に特記すべきことはない。仰臥位での血圧は 110/70 mmHg、脈拍 60/分であり、起立 2 分後の血圧は 80/60 mmHg、脈拍 62/分であった。心音と呼吸音に異常を認めない。胸腹部には異常を認めない。神経診察では構音障害を認める。上肢では鼻指鼻試験で両側の測定障害がみられ、回内回外試験では変換運動障害も認める。四肢には両側とも同程度の筋強剛を認めるが振戦はみられない。歩行時には体幹動揺を認める。

考えられる疾患はどれか。

1. Parkinson 病
2. 多系統萎縮症
3. Huntington 病
4. 筋萎縮性側索硬化症
5. 大脳皮質基底核変性症

臨床統合試験問題

第 4 問

80 歳の男性。夜間に大声をあげることを主訴に来院した。約 10 年前から時々はっきりした夢をみて、夜中に大声をあげるようになった。1 年前から動作がのろくなり、歩行時に歩幅が小刻みとなって、つまずくことが増えてきた。2 か月前から、カーテンが人の姿に見えることがあったという。さらに、夜中に大声をあげて手足を動かしてベッド周囲の物を落とすことが増えてきたため、心配した妻に勧められて受診した。既往歴に特記すべきことはなく、常用薬はない。頭部 MRI では軽度の脳萎縮以外に異常は認めない。

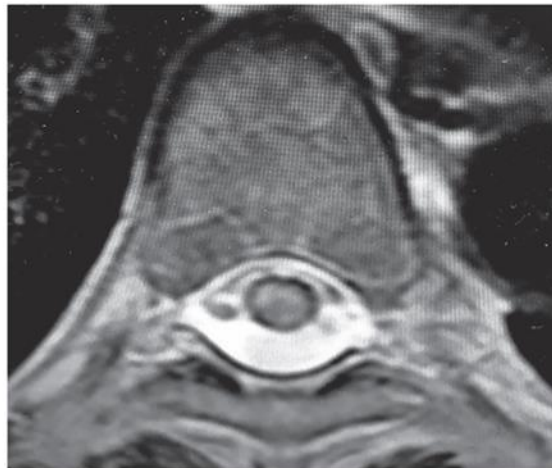
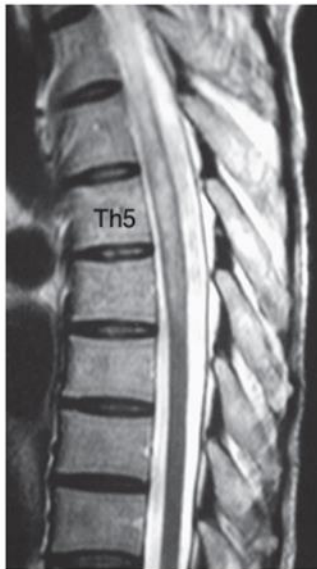
診断に有用な検査はどれか。3 つ選べ。

1. 脳脊髄液検査
2. 末梢神経伝導検査
3. ポリソムノグラフィ
4. MIBG 心筋シンチグラフィ
5. ドパミントランスポーターSPECT

臨床統合試験問題

第 5 問

48 歳の女性。両下肢筋力低下を主訴に来院した。1 年前に右眼視力低下があり、眼科で加療されて症状は改善した。3 日前から両下肢の脱力感としびれ感を自覚していた。これらの症状が徐々に悪化し、本日起床時に起き上がるのが困難となったため、夫が救急車を要請し入院した。意識は清明。血圧 112/64 mmHg。脈拍 80/分、整。胸腹部に異常を認めない。神経診察では脳神経領域に異常を認めない。上肢には麻痺はなく、腱反射は正常である。下肢筋力は両側の近位筋、遠位筋ともに徒手筋力テストで 2 程度に低下している。下肢腱反射は亢進し、Babinski 徴候は両側陽性である。胸骨下縁から下で温痛覚の低下がみられる。血液所見、血液生化学所見に異常を認めない。脳脊髄液所見は細胞数 69(多形核球 60、単核球 9)/mm³ 基準(0~2)、蛋白 62 mg/dL 基準(15~45)、糖 62 mg/dL。胸椎 MRI の T2 強調矢状断像と病変部の水平断像を示す。



診断に有用なのはどれか。

1. MPO-ANCA
2. 抗アクアポリン抗体
3. 抗ガングリオシド抗体
4. 抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体抗 (MuSK 抗体)
5. 抗アミノアシル t-RNA 合成酵素抗体 (抗 ARS 抗体)

臨床統合試験問題

第 6 問

多発性硬化症で認められないのはどれか。2つ選べ。

1. 抗アクアポリン4抗体陽性
2. オリゴクローナルバンド陽性
3. IgG index 上昇
4. 側脳室周囲白質病変
5. 末梢神経障害

臨床統合試験問題

第 7 問

Guillain-Barre 症候群について正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 多発単神経障害を呈することが多い。
2. 脱髄型では抗 GM1 抗体陽性となることが多い。
3. 16 週にわたって進行性に経過することが多い。
4. 治療の第 1 選択は免疫抑制剤の経口投与である。
5. 軸索型では末梢神経伝導検査にて複合筋活動電位低下することが多い。

臨床統合試験問題

第 8 問

糖尿病性神経障害で認める可能性が高い症状はどれか。2つ選べ。

1. 難聴
2. 嗅覚低下
3. 味覚障害
4. 足のしびれ感
5. 歩行時ふらつき

臨床統合試験問題

第 9 問

筋強直性ジストロフィーで認められない所見はどれか。

1. ミオトニア
2. 緑内障
3. 耐糖能異常
4. 心筋伝導障害
5. 禿頭

臨床統合試験問題

第 10 問

次の脳波所見と疾患の組み合わせのうち誤っているのはどれか。

1. 3Hz 棘徐波複合 — 欠神発作
2. Hypsarrhythmia — 点頭てんかん
3. 三相波 — Lennox-Gastaut 症候群
4. 周期性同期性放電 (PSD) — Creutzfeldt-Jakob 病
5. 周期性一側性てんかん型放電 (PLEDs) — 単純ヘルペス脳炎

臨床統合試験問題

第 11 問

片頭痛の急性期治療薬はどれか。2つ選べ。

1. ジタン
2. トリプタン
3. β 遮断薬
4. カルシウム拮抗薬
5. 抗 CGRP 関連抗体

臨床統合試験問題

第 12 問

組み合わせで正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 多発性筋炎 — 抗 Jo-1 抗体
2. サルコイドーシス — 抗 CCP 抗体
3. 抗リン脂質抗体症候群 — 抗 Sm 抗体
4. 全身性エリテマトーデス(SLE) — 抗 Scl-70 抗体
5. 結節性多発動脈炎 — 抗好中球細胞質抗体(ANCA)

臨床統合試験問題

第 13 問

57 歳の男性。左耳痛を主訴に来院した。昨日から左耳痛があり、今朝から左側の顔が動きにくく、左眼が閉じられなくなったため受診した。左耳介に紅斑と水疱の形成を認める。左側の顔面麻痺を認める。

この疾患の原因となるウイルスはどれか。

1. アデノウイルス
2. 単純ヘルペスウイルス
3. Epstein-Barr ウイルス
4. 水痘・帯状疱疹ウイルス
5. ヒトパピローマウイルス

臨床統合試験問題

第 14 問

治療開始前の結核性髄膜炎患者の脳脊髄液所見として正しいのはどれか。血糖値は 96 mg/dL である。

	細胞数 (/mm ³)	単核球数 (/mm ³)	糖 (mg/dL)	蛋白 (mg/dL)
脳脊髄液番号	0～2	0～2	50～75	15～45
1	3450	310	3	370
2	720	600	15	260
3	83	83	55	65
4	240	220	68	95
5	3	2	68	40

1. 脳脊髄液番号1
2. 脳脊髄液番号2
3. 脳脊髄液番号3
4. 脳脊髄液番号4
5. 脳脊髄液番号5

臨床統合試験問題

第 15 問

30 歳の男性。記憶の欠損を心配した妻に付き添われ来院した。数年前から数秒間口をもぐもぐさせることがあり、本人は全く気付いていないが、妻は気になっていた。昨日妻を助手席に乗せて運転中、急に表情が変わり、車が壁に衝突した。意識は清明。身長 175 cm、体重 69 kg。血圧 130/76 mmHg。本人は顔面に昨日の事故で負った傷を示しながら、「全く記憶にないのです。怖くてもう車の運転ができません」と神妙に答えるのみである。

最も考えられるのはどれか。

1. 不随意運動
2. 側頭葉てんかん
3. 解離性障害
4. 逆行性健忘
5. 睡眠時無呼吸症候群

臨床統合試験問題

第 16 問

75 歳の女性。夜間に徘徊することに困った夫に付き添われて来院した。78 歳の夫と 2 人暮らしである。60 歳で発症したアルツハイマー型認知症が進行し、最近 3 か月はひとりで出かけて自宅から離れた場所まで歩き回り、警察に保護されることが多くなった。徘徊や不眠などの原因精査と治療のため、精神科病棟に入院することになった。本人はほとんど言葉を発せず、意思も確認できない。夫の認知機能に低下は認めない。

適切な入院形式はどれか。

1. 緊急措置入院
2. 措置入院
3. 応急入院
4. 医療保護入院
5. 任意入院

臨床統合試験問題

第 17 問

27 歳の女性。「訳の分からないことを言う」と父親に連れられて来院した。左前腕に数多くの注射痕が認められる。半年前から、同棲相手が歓楽街で買って使っていた薬を自分も使うようになった。薬は自分で静脈に注射していたと言う。当初は気分が高揚し、疲労感がなくなり、頭の回転が良くなるなど、快感を体験できていた。しかし、1 か月前からは「殺してやる」という幻聴が現れ、いつもやくざにつけねられているという妄想にとりつかれている。

正しいのはどれか。3 つ選べ。

1. 抗精神病薬が有効である。
2. 身体依存を生じる。
3. フラッシュバックは起きない。
4. 感染症を検査する。
5. ドパミンシステムの異常により精神症状が生じると考えられている。

臨床統合試験問題

第 18 問

受診から 2 か月後、歩行中に転倒して右上腕骨を骨折し、手術のため入院となった。右上腕部の疼痛を訴え、夜間不眠、興奮状態となり、自分が病院へ入院していることが理解できず病棟内を徘徊するようになった。また、幻覚症状が悪化した。これらの症状には日内変動がみられた。

まず行うべき対応はどれか。

1. 家族の面会の禁止
2. 抗コリン薬の投与
3. 抗精神病薬の投与
4. ベンゾジアゼピン系薬剤の投与
5. 照明の調整による生活リズムの確保

臨床統合試験問題

第 19 問

16 歳の男子。約 2 か月前から「部屋の中を誰かに覗かれている」、「自宅にいても、友達が自分の悪口を言っているのが聞こえる」などと訴えるため、心配した両親に連れられて精神科を受診した。診察した精神保健指定医は、本人に治療したいという気持ちがないため、両親の同意を得て医療保護入院とした。入院 7 日目、「自分は病気じゃないから退院したい」と言い、担当医が入院の継続を勧めると「退院請求というのを聞いたので手続きをしたい」と訴えた。

退院請求について正しいのはどれか。

1. 病院長の許可が必要である。
2. 口頭では行うことができない。
3. 閉鎖病棟入院中でなければ行えない。
4. 弁護士を代理人として行うことができる。
5. 両親ともに同意している医療保護入院では行えない。

臨床統合試験問題

第 20 問

マタニティ・ブルーズについて正しいのはどれか。

1. 母乳育児は禁止する。
2. 直ちに精神科医に連絡する。
3. 涙もろくなるのが特徴である。
4. 自然に軽快することは稀である。
5. 分娩1か月後に発症のピークがある。

臨床統合試験問題

第 21 問

統合失調症治療薬の副作用で最も出現頻度が高いのはどれか。

1. 嘔吐
2. 顆粒球減少症
3. 筋弛緩
4. 女性化乳房
5. 錐体外路症状

臨床統合試験問題

第 22 問

43 歳の男性。自営業。すぐに機嫌を損ねて怒鳴るようになったため、妻と母親に説得されて来院した。3か月前に父親が急逝してからしばらくの間、元気がなく、家族と話さなくなった。1か月前から店で必要以上にたくさん仕入れをするようになり、従業員に対して大声で怒鳴りつけるようになった。商品陳列の場所を何度も変え、始終移動させているようになった。元来ほとんど飲酒をしなかったが、毎晩飲酒をするようになったという。多弁で、感情の動きが激しく表出され、話題が際限なく広がる。本人は受診について不満であり、精神的なストレスで悲観的な考えに陥っている家族の方に治療を受けさせたいと述べている。これまでに発達上の問題はなかった。血液検査、頭部 MRI 及び脳波検査に異常を認めない。

この患者にみられる症状はどれか。2 つ選べ。

1. 感覚失語
2. 観念奔逸
3. 行為心迫
4. 連合弛緩
5. 小動物幻視

臨床統合試験問題

第 23 問

心理テストとして用いられるロールシャッハ・テストにおいて間違っているのはどれか。

1. 投影法に分類される性格検査である。
2. 無彩色と有彩色の図版を用いる。
3. 被験者が自ら質問紙に回答を記入する。
4. 検査の所要時間は長くて 30 分程度かかる。
5. 被験者の思考過程を推定することができる。

臨床統合試験問題

第 24 問

強迫性障害の症状として考えられるのはどれか。

1. 自分で考えているという実感がない。
2. 回避行動や過覚醒を認める。
3. 過去にみた光景が頭の中でありありと浮かぶ。
4. 健忘、離人感、失声、運動麻痺といった多彩な症状を認める。
5. 人を傷つけてしまうのではないかと持続的・反復的に考えてしまう。

臨床統合試験問題

第 25 問

33 歳の女性。何もする気になれないことを主訴に夫に伴われて来院した。

現病歴:31 歳時、運転中に突然、息苦しさ、動悸、冷汗およびめまいが出現し、気が遠のき、死ぬのではと恐怖に駆られて近医を受診した。処置を受けて発作は落ち着いたが、その後同様の発作がしばしば起こるようになり、内科、脳外科、婦人科および耳鼻科の受診を繰り返した。「また発作が起きるのでは」という心配も強くなった。次第に銀行やデパートやスーパーへも出かけられなくなった。ここ 1 年間は外出を極力控え家に閉じこもるようになった。徐々に気分が落ち込み、将来に悲観的となり、物事に興味を失い、家事もやりたくない。熟睡できず、食欲が落ち、体重が 1 年で 8 kg 減少した。現在も発作は時々起こっている。

既往歴:月経前に体調不良となる傾向があった。

生活歴:生来明るい性格で、友人も多かった。高校卒業後、事務職として働いていた。22 歳時に結婚し、2 児を育て専業主婦として過ごしていた。

現症:意識は清明。身長 162 cm、体重 45 kg。体温 36.5 °C。脈拍 72/分、整。血圧 120/76 mmHg。

この患者に認められるのはどれか。2 つ選べ。

1. 退行
2. 解離
3. 広場恐怖
4. 予期不安
5. 緊張病性昏迷

臨床統合試験問題

第 26 問

17 歳の女子。体重減少を主訴に来院した。2 年前から摂食量を意識的に減らすようになり、学校における定期健康診断でやせを指摘された。医療機関への受診を指導されたが受診しなかったという。その後も体重がさらに減少しており、心配した母親に付き添われて受診した。身長 150 cm、体重 27 kg。体温 36.1 °C。脈拍 52/分、整。血圧 90/50 mmHg。前腕や背部に産毛の増生を認める。下腿に軽度の圧痕浮腫を認める。

この患者で認められる可能性が高いのはどれか。

1. GH が高値である。
2. 月経周期は正常である。
3. LH/FSH 比が高値である。
4. コルチゾールが低値である。
5. 遊離トリヨードサイロニン<FT3>が高値である。

臨床統合試験問題

第 27 問

18歳の女子。繰り返す授業中の居眠りを主訴に来院した。17歳ころから夜間十分に眠っても日中に強い眠気を感じるようになり、次第に日中の居眠りが増えてきた。半年前から寝つく際に意識はあるのに力が入らず体を動かすことができないという体験が出現するようになった。日中に大笑いすると膝の力が突然に抜けることがある。診察時、意識は清明で神経学的所見に異常を認めない。

この疾患について正しいのはどれか。

1. 肥満者に多い。
2. 入眠時幻覚が出現する。
3. カタレプシーが出現する。
4. 精神的なストレスにより生じる。
5. 夜間の睡眠時間延長で症状は改善する。

臨床統合試験問題

第 28 問

67 歳の女性。不眠を主訴に来院した。1 か月前から夜になると両足に虫が這うような不快な感覚を自覚していた。この不快感は安静にしていると増強するが、足を動かすことで軽減する。かかりつけ医からは経過をみるように言われたが良くなりず、足を動かしたい欲求が強く寝つけなくなり受診した。四肢の筋トーンは正常で筋力低下を認めない。腱反射は正常で、Babinski 徴候は陰性である。感覚障害と小脳性運動失調とを認めない。歩行に支障はなく、日常生活動作にも問題はない。血液生化学検査では血清フェリチンを含めて異常を認めない。

適切な治療薬はどれか。

1. β 遮断薬
2. 筋弛緩薬
3. 抗コリン薬
4. ドパミン受容体作動薬
5. アセチルコリンエステラーゼ阻害薬

臨床統合試験問題

第 29 問

注意欠如多動性障害について正しいのはどれか。

1. 言語発達が遅れる。
2. 女性に多い。
3. 中学生に多く発症する。
4. 脳内ドーパミン神経系の異常を伴う。
5. 愛着障害を伴う。

臨床統合試験問題

第 30 問

25 歳の女性。異性関係や職場の人間関係のトラブルがあるたびにリストカットを繰り返すため、母親に伴われて精神科を受診した。本人はイライラ感と不眠の治療のために来院したという。最近まで勤めていた職場は、複数の男性同僚と性的関係をもっていたことが明らかとなり、居づらくなって退職した。親しい友人や元上司に深夜に何度も電話をかけるなどの行動があり、それを注意されると、怒鳴り散らす、相手を罵倒するなどの過激な反応がみられた。相手があきれて疎遠になると、SNSで自殺をほのめかし、自ら救急車を呼ぶなどした。一方、機嫌がよいと好意を持っている相手にプレゼントしたり、親密なメールを何度も出したりするなど感情の起伏が激しい。

この患者にみられることが予想される特徴はどれか。

1. 繰り返し嘘をつく。
2. 第 6 感やジンクスにこだわる。
3. 慢性的な空虚感を抱えている。
4. 完全癖のため物事を終了できない。
5. 自分が注目の的になっていることを求める。

臨床統合試験問題

第 31 問

アルコール依存症患者で起こるビタミン欠乏症で関連の深いものはどれか。

1. ビタミン A
2. ビタミン B₁
3. ビタミン B₁₂
4. ビタミン C
5. ビタミン D

臨床統合試験問題

第 32 問

48 歳の女性。転倒による大腿骨骨折のため、昨日入院した。昨晩は夜間に全く眠らない状態が続き、今朝から手指と上肢に粗大な振戦が出現した。既往歴に特記すべきことはない。喫煙歴はない。20 歳から飲酒を開始し、32 歳から夫の母親を自宅で介護するようになり、飲酒する頻度が増えた。38 歳から連日昼間も飲酒するようになり、45 歳からは 1 日に焼酎 500 mL 以上を飲酒していた。体温 36.7 °C。脈拍 68/分、整。血圧 140/88 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。血液所見：赤血球 392 万、Hb 13.0 g/dL、Ht 42 %、白血球 7,500、血小板 17 万。血液生化学所見：総蛋白 7.8 g/dL、アルブミン 3.8 g/dL、総ビリルビン 1.0 mg/dL、AST 140 U/L、ALT 80 U/L、 γ -GTP 210 U/L(基準 8~50)、総コレステロール 295 mg/dL、トリグリセリド 240 mg/dL。頭部 CT で異常を認めない。

数日以内に出現する可能性の高い症状の予防に適切な薬剤はどれか。

1. 選択的セロトニン再取込み阻害薬
2. ベンゾジアゼピン系薬
3. 精神刺激薬
4. 抗精神病薬
5. 抗酒薬

臨床統合試験問題

第 33 問

大球性貧血をきたすのはどれか。2 つ選べ。

1. 胃全摘後
2. 消化管出血後
3. 再生不良性貧血
4. 骨髄異形成症候群
5. ヒトパルボウイルス B19 感染

臨床統合試験問題

第 34 問

温式自己免疫性溶血性貧血で正しくないのはどれか。2 つ選べ。

1. 血管外溶血である。
2. IgG 型抗体が原因である。
3. ハプトグロブリンが高値を示す。
4. 直接 Coombs 試験が陽性である。
5. シクロフォスファミドが第一選択の治療法である。

臨床統合試験問題

第 35 問

慢性炎症に伴う貧血で増加するのはどれか。

1. 血清鉄
2. フェリチン
3. 網赤血球数
4. ハプトグロビン
5. 平均赤血球容積〈MCV〉

臨床統合試験問題

第 36 問

18 歳の男子。全身倦怠感と発熱を主訴に来院した。2 週間前から労作時の息切れを自覚していた。3 日前から 38 °C 台の発熱と全身倦怠感があり受診した。身長 170 cm、体重 60 kg。体温 38.3 °C。脈拍 100/分、整。血圧 118/64 mmHg。両下肢に点状出血を認める。眼瞼結膜は貧血様であるが、眼球結膜に黄染を認めない。胸骨右縁第 2 肋間を最強点とする Levine 2/6 の収縮期駆出性雑音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。圧痛を認めない。血液所見：赤血球 230 万、Hb 6.8 g/dL、Ht 20 %、白血球 1,400 (分葉核好中球 24 %、単球 2 %、リンパ球 74 %)、血小板 1.2 万。血液生化学所見：総蛋白 6.8 g/dL、アルブミン 3.4 g/dL、総ビリルビン 0.7 mg/dL、AST 56 U/L、ALT 71 U/L、LD 158 U/L (基準 120～245)、尿素窒素 14 mg/dL、クレアチニン 0.7 mg/dL、血糖 98 mg/dL。CRP 4.2 mg/dL。骨髓生検では著明な低形成所見を認める。

この患者で低下するのはどれか。

1. フェリチン
2. 網赤血球数
3. ビタミン B₁₂
4. エリスロポエチン
5. 好中球アルカリフォスファターゼスコア

臨床統合試験問題

第 37 問

60 歳の女性。全身倦怠感と褐色尿が続くために来院した。5 日前にインフルエンザのため抗ウイルス薬と解熱薬とを処方された。治療開始後、全身倦怠感と褐色尿が続いている。数年前から感冒に罹患すると褐色尿になることを自覚していた。体温 36.3 °C。眼瞼結膜は貧血様だが眼球結膜に黄染を認めない。心基部に収縮期雑音を聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。血液所見：赤血球 287 万、Hb 7.2 g/dL、Ht 25 %、網赤血球 3.3 %、白血球 5,400 (桿状核好中球 5 %、分葉核好中球 58 %、好酸球 2 %、単球 6 %、リンパ球 29 %)、血小板 23 万。血液生化学所見：総蛋白 6.7 g/dL、アルブミン 4.0 g/dL、総ビリルビン 2.4 mg/dL、AST 20 U/L、ALT 18 U/L、LD 2,643 U/L (基準 176～353)、尿素窒素 19 mg/dL、クレアチニン 0.7 mg/dL、尿酸 3.2 mg/dL。CD55 と CD59 が陰性の赤血球を認める。

この患者の所見として正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 血管外溶血
2. 直接 Coombs 試験陽性
3. 骨髄赤芽球低形成
4. 血清ハプトグロビン低下
5. GPI アンカー蛋白欠損赤血球

臨床統合試験問題

第 38 問

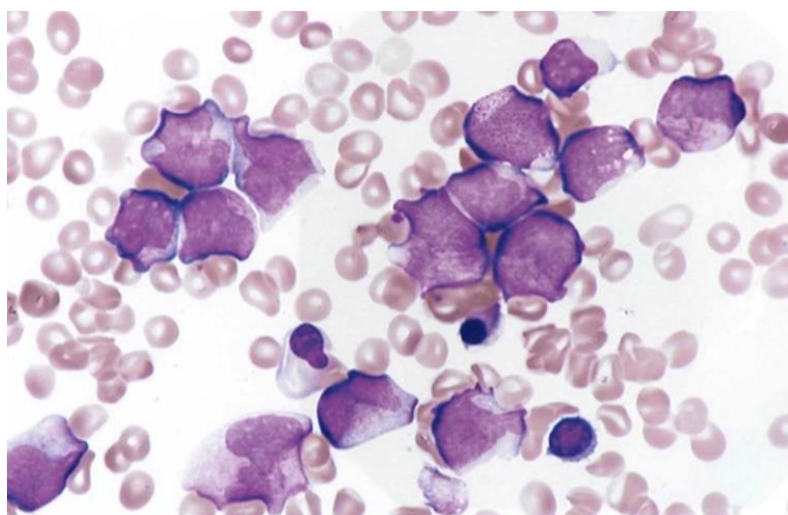
JAK2 遺伝子変異を高頻度で認める疾患はどれか。2 つ選べ。

1. 多発性骨髄腫
2. 原発性骨髄線維症
3. 慢性リンパ性白血病
4. 慢性骨髄性白血病
5. 真性赤血球増加症

臨床統合試験問題

第 39 問

38 歳の男性。1 週間前から皮下出血が出現したため自宅近くの診療所を受診したところ、白血球減少と血小板減少を指摘され精査のため紹介受診した。体温 36.6 °C。脈拍 92/分、整。血圧 118/76 mmHg。眼瞼結膜は貧血様で眼球結膜に黄染を認めない。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。両下肢に紫斑を認める。血液所見：赤血球 381 万、Hb 12.6 g/dL、Ht 36 %、白血球 2,400(芽球 9 %、前骨髄球 60 %、分葉核好中球 12 %、リンパ球 19 %)、血小板 1.6 万。血液生化学所見：総蛋白 7.7 g/dL、アルブミン 4.8 g/dL、総ビリルビン 1.1 mg/dL、直接ビリルビン 0.1 mg/dL、AST 29 U/L、ALT 30 U/L、LD 365 U/L(基準 120～245)、ALP 110 U/L(基準 38～113)、尿素窒素 18 mg/dL、クレアチニン 1.1 mg/dL、尿酸 9.3 mg/dL、Na 143 mEq/L、K 3.9 mEq/L、Cl 107 mEq/L、Ca 9.3 mg/dL。CRP 0.3 mg/dL。骨髓血塗抹 May-Giemsa 染色標本写真を別に示す。



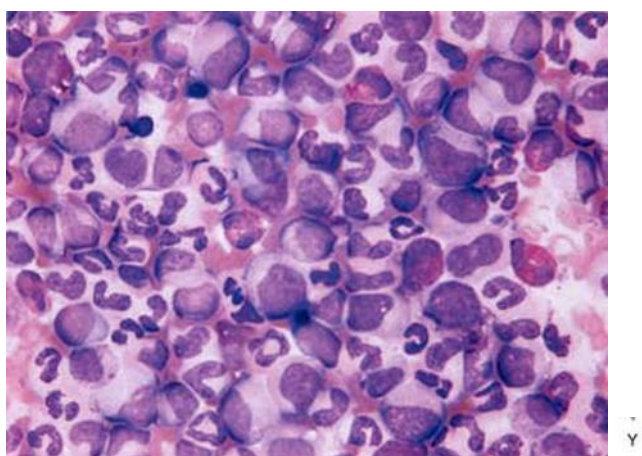
この患者に投与すべき薬剤はどれか。

1. イマチニブ
2. ゲフィチニブ
3. シクロスポリン
4. ブレオマイシン
5. 全トランス型レチノイン酸

臨床統合試験問題

第 40 問

50 歳の男性。健診で白血球増多を指摘され来院した。自覚症状は特にない。体温 36.5 °C。脈拍 84/分、整。血圧 136/76 mmHg。表在リンパ節を触知しない。左肋骨弓下に脾を 3 cm 触知する。血液所見：赤血球 440 万、Hb 13.5 g/dL、Ht 43 %、白血球 55,000 (骨髄芽球 2 %、前骨髄球 2 %、骨髄球 4 %、後骨髄球 5 %、桿状核好中球 4 %、分葉核好中球 62 %、好酸球 8 %、好塩基球 7 %、リンパ球 6 %)、血小板 35 万。骨髄血塗抹 May-Giemsa 染色標本、骨髄細胞染色体分析を別に示す。



治療薬として適切なのはどれか。

1. レナリドミド
2. ダサチニブ
3. リツキシマブ
4. イブルチニブ
5. ベネトクラクス

臨床統合試験問題

第 41 問

キメラ抗原受容体遺伝子導入T細胞(CAR-T)療法の適応にならないのはどれか。

1. 多発性骨髄腫
2. 急性骨髄性白血病
3. 急性リンパ性白血病
4. 濾胞性リンパ腫
5. びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫

臨床統合試験問題

第 42 問

69 歳の男性。びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に対する治療のため来院した。30 年前から高血圧症と慢性腎臓病で自宅近くの診療所に通院していたが、胸部エックス線写真で縦隔腫瘤を指摘された。2 週間前に胸腔鏡下に縦隔腫瘤の生検を受け、びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫と診断され、抗癌化学療法を受けるため紹介受診した。身長 168 cm、体重 61 kg(3 か月で 5 kg 減少)。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。血液所見：赤血球 451 万、Hb 12.7 g/dL、Ht 40 %、白血球 8,400、血小板 36 万。血液生化学所見：総蛋白 6.6 g/dL、アルブミン 3.5 g/dL、総ビリルビン 0.8 mg/dL、AST 25 U/L、ALT 19 U/L、LD 286 U/L(基準 120～245)、尿素窒素 38 mg/dL、クレアチニン 2.1 mg/dL、尿酸 8.9 mg/dL。心電図に異常を認めない。

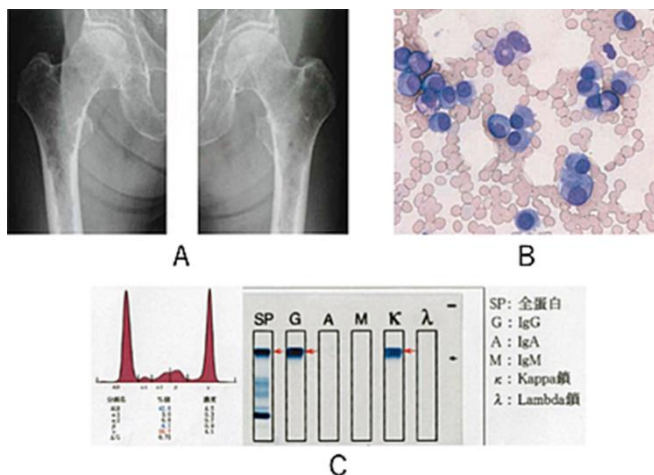
この患者で治療開始前に行うべき検査はどれか。2 つ選べ。

1. 骨髄検査
2. 呼吸機能検査
3. 心エコー検査
4. 腹部超音波検査
5. 頸部～骨盤部造影 CT

臨床統合試験問題

第 43 問

64 歳の男性。股関節痛を主訴に来院した。半年ほど前から両側の股関節痛を自覚し、会社の診療所で処方された鎮痛薬を不定期に内服していたが痛みが改善しないため受診した。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。表在リンパ節は触知しない。血液所見:赤血球 353 万、Hb 11.5 g/dL、Ht 34 %、白血球 3,200、血小板 16 万。血液生化学所見:総蛋白 10.5 g/dL、アルブミン 3.9 g/dL、IgG 5,425 mg/dL(基準 960~1,960)、IgA<20 mg/dL(基準 110~410)、IgM<10mg/dL(基準 65~350)、総ビリルビン 0.7 mg/dL、AST 19 U/L、ALT 10 U/L、LD 178 U/L(基準 120~245)、尿素窒素 11 mg/dL、クレアチニン 0.9 mg/dL、尿酸 4.7 mg/dL、Na 141 mEq/L、K 4.2 mEq/L、Cl 108 mEq/L、Ca 9.8 mg/dL。エックス線写真で両股、胸椎および腰椎に多発する溶骨性病変を認める。両股関節エックス線写真(A)、骨髓血塗抹 May-Giemsa 染色標本(B)、血清蛋白分画、免疫電気泳動検査写真(C)を別に示す。



この患者の治療として適切でないのはどれか。

1. デキサメタゾン
2. 自家末梢血幹細胞移植
3. ビスホスホネート製剤
4. プロテアソーム阻害薬
5. 多発性骨病変に対する放射線照射

臨床統合試験問題

第 44 問

プロトロンビン時間が延長するのはどれか。

1. 血友病 A
2. von Willebrand 病
3. ビタミン K 欠乏症
4. 高リン脂質抗体症候群
5. 免疫性血小板減少性紫斑病

臨床統合試験問題

第 45 問

70 歳の男性。下肢の皮疹を主訴に来院した。自宅近くの診療所で 3 か月前に受けた血液検査で異常はなかった。3 日前に両下肢の点状の皮疹に気づき、増加したため受診した。50 歳から高血圧症で内服治療中である。市販薬は内服していない。体温 36.4 °C、脈拍 72/分、整。血圧 138/82 mmHg。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。上肢の採血部位に紫斑を認める。両下肢に紫斑を多数認める。血液所見：赤血球 463 万、Hb 13.2 g/dL、Ht 40 %、白血球 6,400 (分葉核好中球 55 %、好酸球 1 %、好塩基球 2 %、単球 6 %、リンパ球 36 %)、血小板 0.8 万。血液生化学所見：総蛋白 7.0 g/dL、アルブミン 4.5 g/dL、AST 32 U/L、ALT 25 U/L、LD 186 U/L (基準 176～353)、尿素窒素 12 mg/dL、クレアチニン 0.6 mg/dL、血糖 86 mg/dL、Na 142 mEq/L、K 4.1 mEq/L、Cl 104 mEq/L。骨髓血塗抹 May-Giemsa 染色標本で巨核球を認める。造血細胞に形態異常は認めない。

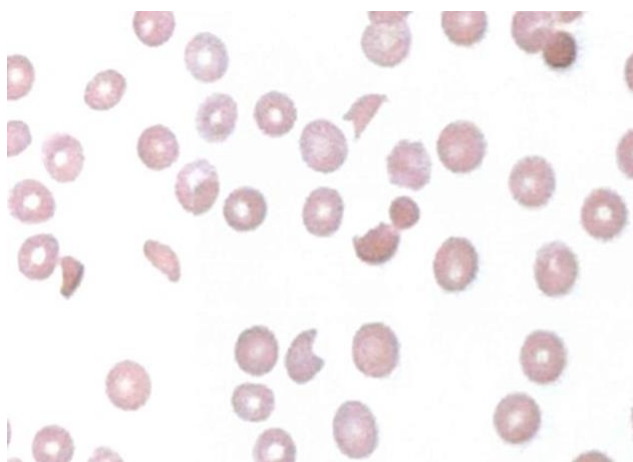
治療方針の決定に有用な検査はどれか。

1. 尿素呼気試験
2. 血小板機能検査
3. 骨髓染色体検査
4. 薬剤リンパ球刺激試験
5. 組織適合抗原〈HLA〉検査

臨床統合試験問題

第 46 問

72 歳の女性。血小板減少の精査を自宅近くの医療機関で行っていたが、精神症状が出現したため入院となった。感冒様症状で自宅近くの医療機関を受診したところ血小板 5.6 万と減少を認めた。翌日からつじつまの合わない言動が出現したため入院となった。意識レベルは JCS I-2。体温 37.9 °C。脈拍 76/分、整。血圧 156/96 mmHg。眼瞼結膜は貧血様で、眼球結膜に軽度黄染を認める。胸骨右縁第 2 肋間を最強点とする Levine 2/6 の収縮期駆出性雑音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。腹部の診察で異常を認めない。尿所見：蛋白 2+、潜血 3+。血液所見：赤血球 230 万、Hb 6.1 g/dL、Ht 26 %、白血球 9,700、血小板 4.7 万、PT-INR 1.1(0.9~1.1)、APTT 26.1 秒(基準対照 32.2)、FDP 9 μ g/mL(基準 10 以下)。血液生化学所見：総ビリルビン 2.4 mg/dL、直接ビリルビン 0.5 mg/dL、AST 50 U/L、ALT 40 U/L、LD 1,150 U/L(基準 120~245)、尿素窒素 70 mg/dL、クレアチニン 2.5 mg/dL。末梢血塗抹 May-Giemsa 染色標本を別に示す。



治療として適切なのはどれか。

1. 抗菌薬投与
2. ヘパリン投与
3. 血漿交換療法
4. 血小板製剤輸血
5. トロンボポエチン受容体作動薬の投与

臨床統合試験問題

第 47 問

23 歳の男性。咽頭痛、嘔吐および下痢を主訴に来院した。半年前から不特定多数の異性との性交渉を繰り返していた。2 週間前から間欠的に 39 °C 台の発熱があり、1 週間前から咽頭痛が出現した。2 日前から嘔吐と下痢も加わり持続するため受診した。身体所見では明らかな異常を認めなかったが、血液検査において HIV 抗原・抗体同時スクリーニング検査が陽性であった。

HIV 感染の確定に必要な検査はどれか。2 つ選べ。

1. 咽頭培養
2. 血液培養
3. 血中 HIV RNA 定量検査
4. CD4 陽性 T リンパ球数測定
5. Western blot 法による抗 HIV 抗体測定

臨床統合試験問題

第 48 問

臨床検査のパニック値はどれか。2 つ選べ。

1. ヘモグロビン 9.8g/dL
2. 血小板 9.2 万/ μ L
3. 動脈血 pH 7.10
4. 血清 K 7.0mEq/L
5. 空腹時血糖 70mg/dL

臨床統合試験問題

第 49 問

静脈採血の合併症として最も起こる可能性が低いのはどれか。

1. 消毒薬に対するアレルギー反応
2. 血管迷走神経反射
3. 横紋筋融解症
4. 神経損傷
5. 皮下血腫

臨床統合試験問題

第 50 問

50 歳男性。1 か月前からの頸部リンパ節、鼠径部リンパ節腫脹を主訴に来院した。頸部リンパ節生検の結果、びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の診断となり、化学療法が予定されている。

治療を開始するにあたり確認しなくてもよい検査項目はどれか。2 つ選べ。

1. HBe 抗原
2. HBs 抗原
3. HBc 抗体
4. HBe 抗体
5. HBs 抗体

臨床統合試験問題

第 51 問

76 歳の女性。発熱と心窩部痛を主訴に来院した。半年前に膜性腎症によるネフローゼ症候群を発症し、深部静脈血栓症を伴っていたため、副腎皮質ステロイド薬と抗凝固薬(ワルファリン)の内服を継続していた。昨日から 38℃ 台の発熱と心窩部痛が出現し、食欲も低下したため受診した。意識は清明。身長 154 cm、体重 42 kg。体温 38.1℃。脈拍 96/分、整。血圧 112/66 mmHg。呼吸数 22/分。SpO₂ 97 % (room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦で心窩部から右季肋部にかけて圧痛を認める。血液所見:赤血球 369 万、Hb 11.1 g/dL、Ht 36 %、白血球 11,200、血小板 26 万、PT-INR 1.8(基準 0.9~1.1)。血液生化学所見:総ビリルビン 2.4 mg/dL、直接ビリルビン 1.8 mg/dL、AST 96 U/L、ALT 121 U/L、LD 298 U/L(基準 120~245)、ALP 352 U/L(基準 115~359)、γ-GT 132 U/L(基準 8~50)、尿素窒素 38 mg/dL、クレアチニン 1.8 mg/dL、Na 138 mEq/L、K 4.6 mEq/L、Cl 107 mEq/L。CRP 8.8 mg/dL。腹部超音波検査で胆嚢の腫大と壁肥厚を認め、入院絶食下で末梢輸液および広域セフェム系抗菌薬の点滴静注が開始された。治療開始後 5 日目に症状は軽快し、1 週後の血液検査で AST、ALT、CRP は低下していたが、PT-INR が 4.2 と上昇していた。

この患者で PT-INR の上昇に影響したのはどれか。2 つ選べ。

1. 腎機能障害
2. 入院後の絶食
3. 治療前の CRP 値
4. 広域セフェム系抗菌薬
5. 副腎皮質ステロイド薬

臨床統合試験問題

第 52 問

19 歳の男性。交通外傷のため救急車で搬入された。河川沿いの堤防道路でオートバイ運転中に対向車と接触し転倒、崖下に転落した。問いかげに対して名前は言える。心拍数 122/分。血圧 72/50mmHg。呼吸数 28/分。SpO₂ 96 % (room air)。右前胸部に圧痛があり、右呼吸音が減弱している。腹部は膨満している。右下肢は外旋位で右下腿の変形と開放創を認める。大量輸液を行っても血圧の上昇がみられなかった。出血の持続と凝固障害の合併が懸念されるため、血液型の確定を待たずに院内にある輸血製剤を用いて輸血療法を行うことにした。

投与が可能な濃厚赤血球液と新鮮凍結血漿の組合せはどれか。

1. 濃厚赤血球液＝O 型 Rh(+)、新鮮凍結血漿＝O 型 Rh(+)
2. 濃厚赤血球液＝O 型 Rh(+)、新鮮凍結血漿＝AB 型 Rh(+)
3. 濃厚赤血球液＝AB 型 Rh(+)、新鮮凍結血漿＝O 型 Rh(+)
4. 濃厚赤血球液＝AB 型 Rh(+)、新鮮凍結血漿＝AB 型 Rh(+)
5. 濃厚赤血球液＝AB 型 Rh(+)、新鮮凍結血漿＝AB 型 Rh(-)

[illegible]